

授業科目名	法哲学Ⅰ	選 択	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	法とはどのようなものであるかを考える	担当者	柳沢 謙次			
講義概要	<p>【概要】 法哲学は、①実定法（憲法・民法・刑法等）（の解釈学）と離れ、実定法秩序の構造を考えたり、②実定法秩序の「基礎」や、法の目的・理念、法学の性格や方法等を対象として考察するものです。</p> <p>いろいろな考えを知りますが、それらを知識として得ることを目的とするものではなく、それらから触発され、考えていくものです。前期は特に法と正義との関連を見ていきます。</p> <p>【到達目標】 法とはどのようなものかについて、自分なりの一定の考えを創ること。</p>					
履修条件	(特になし)。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 (特になし)。テキストに沿って進める方式を採りません。講義に際しては、必要に応じて、概要を示したプリントを配布します。</p> <p>【参考書】 (特になし)。講義の中で、適宜、参考になる書籍を挙げていきます。</p>					
授業回数	内容					
1	法とは何か？（法と他の社会規範、法の必要性について）					
2	" (法と、国家・経済・政治・宗教等との、関連について)					
3	" (法はどこに在るのか？ 実定法に？判決に？人々の心の中に？)					
4	法 (Recht) は正しい (recht) もの？					
5	「正しい」とはどういうことか？（古代の、法と正義の理解）					
6	" (中世の、法と正義の理解)					
7	" (近世<西欧>の、法と正義の理解)					
8	絶対的な正しい「法」への疑問と、新たな正しい「法」の模索					
9	「正しい」と言えるのはなぜか？（正しい法の在る無しの前に、それを知る力が有るのか？）					
10	法の「正しさ」を論じ得る学を創る試み。（自然科学におけるような<正しい>法の学？）					
11	正義を論じることの諦め。					
12	正義論の復活、あるいは思弁的正義論の提出とそれへの批判。					
13	正義論の復活、あるいは形式的正義論の提出とそれへの期待。					
14	正義論の復活、あるいは実質的正義論の提出とそれへの期待。					
15	補論					
評価方法	講義を聴いて、何が問題になっているかを理解した上で、自分はどのように考えるかを、期末に「レポート」として提出することを求めます。講義で得た知見を基に、自分でじっくり考えたレポートが多数出ることを期待しています。そのようなレポートを、「良きモノ」として評価します。					
評価基準	上記授業単元の内容について、此れを良く理解し、適切に表現出来た者には「A」を与える。単元の内容に付いての理解や表現に不適切な点が有る者は其の程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容に付いての理解自体が不十分な者は其の程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	上に詳細な講義予定を記しましたが、履修者の興味・関心と理解の深淺を観て、適宜、講義内容を変えることがあります。					